

岡本知高さん

[ソプラニスタ]



技巧的な発声ではなく、天性のソプラノヴォイスを持つ岡本知高さんは、ソロコンサートやオーケストラとの共演など、精力的に音楽活動を展開。その一方でライフワークとして取り組んでいる学校訪問や子どもたちとのふれあいについてお話ししていただきました。

衝撃的な合奏練習での感動

音大受験を決意したのは中1の時。大きなきっかけになったのが小学校6年の時の全体合奏でした。市の音楽祭に向けて、放課後、全員でドヴォルザークの『新世界より』を猛練習。すると、曲が完成してくるにつれ、鳥肌が立つようになっていく自分に気づいたのです。みんなで一斉に音を出した時の“ぞわぞわ”とした興奮。それは、今までに感じたことのないものでした。「吹奏楽をもっとやってみたい。それなら音楽の先生になるのが一番」と、僕は音大めざしてサックスのレッスンと受験勉強を始めました。

でも、高3になる直前、先生になるには教育学科の方が適していると進路を変更。受験科目の音楽の実技の練習のために、神崎克彦先生のもとを訪ねたのですが、僕の歌を聞いての第一声は「なんだ、その声は。ふざけるな」でした。僕がふざけて高い声を出していると思ったのですよね。そう言いながらも、先生は「この声を伸ばさないのはもったいない」と、声楽専修への進学を勧めてくださいました。

神崎先生は、声楽の道を歩み始めた大学生の僕に学校で歌う機会を与えてくださった恩師でもあります。当時、愛媛県宇和島市の小学校で校長を務めていた先生が、「学校で歌ってみないか」と呼んでくださったのです。

初めての学校訪問コンサートは、決して成功とはいえませんでした。その時僕が習っている曲を歌うだけの発表

会になってしまい、子どもたちは途中から騒ぎ始めてしまったのです。まさに“百聞は一見に如かず”。100回のレッスンよりも1回ステージに立つほうが得られるものは多いものです。自分からもっと子どもたちのところに入っていかなければならないだと痛感させられました。

身体で音楽を感じてほしい

学校公演ではオペラのアリアも歌えば、『故郷』や『紅葉』をはじめとする日本の唱歌、『翼をください』など、子どもたちが学校で習っている曲も歌います。また、ステージからだけでなく、体育館の後ろから登場して、座っている子どもたちの間を歩き、その耳元で歌ったりもします。それは人間の声がこんなに大きかったり、高かったりすることや、ニコニコして歌う時や悲しい演技をして歌う時など、いろいろ変化を持たせられることを知り、音の不思議さを体感してほしいからです。

歌の合間には「拍手って温かいね。だけど、拍手が寒いか温かかって、どういう意味？」など、ちょっとハテナな話や、心とは何かという哲学的な話もします。そうすることで、公演を単なる鑑賞会に終わらせず、身体で音楽を感じ、音楽の楽しさに触れてもらう場にして、僕なりのメッセージを届けたいと考えています。

明るく元気な声で話すことが大切

握手しながら歌って回っていると、時々、この子は何か思うところがある

んだらうとか、この子には素直に伝わっているとか、わかることがあります。

最近の子どもは、私たちの世代よりも大人を喜ばせる術を知っていると思います。でも、非日常の体験をすると、ペロんと素の姿が出てしまう。だから、できるだけ身体で感じる授業、感動を得られる授業を行い、本当に感動して出てくる言葉や気持ちに目を向けてほしいですね。

毎日、接していると見逃しがちですが、まったく同じ一日がないように、子どもたちも常に変化しています。だから、成長を敏感に拾って反応してあげてほしいし、子どもたちの言葉やまなざしの中に光を見出してほしいと思います。

それからもうひとつ。声はウソをつけません。嫌なことがあれば、その気持ちが声に出ます。それは僕も同じです。ただ、プロの演奏家が楽器を選ばないように、僕は声の調子が悪かろうが、気分が悪かろうが、逆にそれを楽しもうとしています。その方法は人それぞれですが、例えば美しいものを見た時に心で思うだけでなく、無理にでも「きれいだな」と口に出してみる。最初からダメだと思うのではなく、良い結果が出ることを信じてチャレンジする。それが大事です。

声は人を責めるためのものではなく、仲良くなるためにあるものです。先生方には、ぜひとも、いつも明るく元気な声で話すよう心がけていただきたいです。

PROFILE

おかもと・とまたか●1976年高知県生まれ。国立音楽大学声楽科卒業。生まれながらに女性ソプラノの音域を持つ「天性の男性ソプラノ歌手」として2003年にCDデビュー。オペラから日本歌曲、ポップスまで、レパートリーは多岐に渡る。2010年1月、『ジバンギー心に響く、日本のうたー』をリリース。今年の11月7日には日本フィルハーモニー交響楽団で、12月25日には紀尾井ホールでクリスマスコンサートも公開。学校公演の御依頼などは<http://okamototomotaka.com>のお問合せフォームへ。

小学校の時に体感した音の感動と 恩師との出会いが歌手の道につながった